

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	キッズサポートてんとうむし		
○保護者評価実施期間	2025年 9月 1日 ～ 2025年 10月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40 (回答者数)	32
○従業者評価実施期間	2025年 9月 1日 ～ 2025年 10月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14 (回答者数)	14
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 29日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・児童発達支援管理責任者・保育士・児童指導員・看護師・療法士の各専門職がそれぞれの役割を果たしながら、他職種の役割を互いが理解して、チーム連携が図れていること。	・毎月常勤会議のほか、全スタッフの会議、職種ごとの会議を開催して、情報の共有化や意見交換を行っている。 ・日々の活動の体制をその日ごとに確認し、利用者の担当に職種による偏りがないように配置工夫をしている。 ・会議の中でケースに対する支援状況の確認と今後の対応について、具体的に提示し、共有化を図っている。	・個別支援における職員のスキルを向上のため、継続的に研修やミニ学習会を開催し、フィードバックも継続していく。 ・職員個々の自己研鑽力を高め、スキルアップを図っていく。 ・チームビルディングについての研修を継続的に開催し、チーム連携が具体的に、実践的に行えるようにしていく。
2	・支援内容については、年間、月間の活動目的が明確かつバリエーションに富み、個々の状況に合わせた取り組みができています。	・保育士や児童指導員が具体的な活動プログラム計画をたてるほか、療法士による専門的支援計画や個別プログラムも取り入れ、身体、知的、認知、生活スキル等全人的ケアへの取り組みを心がけている。また会議等で実施に必要な情報共有や意見交換を行っている。	個別支援会議が定期的に、一同に会した形で開催ができる体制づくりを作っていく。
3	活動スペースが狭い反面、職員全体の動きもよく把握でき、お互いに声かけもしやすいため、利用者の安全確保や事故対策につながっている。	・日頃から職員間での意思疎通を深めたり、年間を通しての親睦会開催などを通し、風通しの良い人間関係を築けるようにしている。 ・毎月の会議の中で、職員自身の行動の振り返りについて共有しながら、安全等の確保につなげている。	・研修や会議を通して、利用者の安全を第一に、職員間のコミュニケーションスキルやチーム連携意識の向上を図っていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者の方と情報共有や伝達事項を周知できる機会が少ないこと。	・日ごろ、保護者の方と対面でお話できる機会が、送迎時のみになってしまうことや年間を通して個別面談や保護者会の頻度も限られてしまうこと。電話での対応も行っているが、十分な理解が得られていないこともあると感じる。	・伝え方、伝えるツールの工夫などを検討していく。
2	・活動スペースが指定基準は満たしているものの、利用者の成長に伴い、手狭になってきた。	開所当初からの建物で、利用者の状況に応じて調整することが難しい。	・スペースの課題については、法人としても取り組んでいきたい。(継続課題)
3	・地域交流が法人の目指す活動の一つでもあるが、交流の機会や交流方法については、まだ充分とはいえない。	・行事やイベントの開催が、まだ事業所内での開催になり、開催経験が浅い。また、日頃からの地域との関り方が薄い。	・近隣の中学校からのボランティア活動を通しての交流は継続していく。 ・季節行事等で地域の方にも参加していただけるような企画を考えていく。 ・日頃から地域との関りが持てるよう、地域の方々への活動情報の提供なども検討していく。